

平成 29 年度広島県大学図書館協議会事業報告

**1. 会議**

1. 平成 29 年度総会

日時：7月7日（金）13：30～16：10

会場：海上保安大学校 総合実習棟 2階 海技演習室

（当番館：海上保安大学校図書館）

参加：24 機関 39 名

2. 幹事館連絡会議 第 1 回 5 月 30 日

3. 研修企画委員会 第 1 回 5 月 30 日

4. 共同リポジトリ委員会 第 1 回 2 月 9 日

5. 広島県内図書館連絡会議 12 月 19 日

**2. 研修会**

第 1 回

日 時：平成 29 年 9 月 13 日（水）13:00～17:00

会 場：広島大学 東千田未来創生センター 2 階

テーマ：「2020 年の大学図書館を考える」

第 2 回

日 時：平成 29 年 12 月 22 日（金）13:30～17:15

会 場：広島経済大学 アカデミック・コモンズ「明德館」8104、8105

テーマ：「著作権について〈みんなで考えよう（著作権の考え方・とらえ方）〉」

**3. 事業**

1. 協議会ホームページの運用

総会議事録、研修会報告、ビブリオバトル結果、ひとめマップの掲載。

2. 共同リポジトリ（HARP）の運用

参加機関数 16 機関

3. 「ひとめでわかる広島県大学図書館協議会（通称：ひとめマップ）」の更新

4 月更新照会後、6 月更新。

4. ビブリオバトル広島地区予選・決戦の開催

「全国大学ビブリオバトル 2017～首都決戦～」に広島県内の大学生・大学院生が参加できるような環境を整えることを目的に協議会事業として（平成 29 年度総会承認）以下の通り実施した。

(1) 広島県立図書館が中国 E ブロック地区決戦主催団体として、広島県立図書館・広島県大学図書館協議会・広島県立図書館友の会主催で地区決戦を開催。

(2) 広島県立図書館・広島県大学図書館協議会の役割

広島県立図書館：予選会事務局への申請・連絡調整・報告、地区決戦の開催、広報。

広島県大学図書館協議会：各大学間の連携、予選会の開催、広報。

- (3) 尾道市立大学・啓文社連合に対し中国 D ブロック地区決戦共催を申請し、了承されたため、地区決戦出場者を参加させた。

- ・共催申請承認伺い：協議会メーリングリストにて行った。
- ・申請理由：近年地区決戦（会場：広島県立図書館）出場者の増加により、広島県立図書館にて調整が必要となることがあったので、参加者数の調整のため。また尾道近隣大学からの出場者の交通利便性向上のため。

- (4) 広島県大学図書館協議会内の実施体制

- ・協議会事業として予選会開催大学を募集した。
- ・予選会を 6 大学（2 大学中止）で開催した。
- ・広報等を連携して行った。
- ・本協議会主催の地区決戦出場者について、中国 E ブロック地区決戦会場（広島県立図書館）への旅費を支弁した。中国 D ブロック地区決戦会場（しまなみ交流会館）への旅費は、地区決戦出場者が不要としたため、支弁しなかった。

- (5) 加盟館予選会開催結果

開催大学	チャンプ本	出場者数	参加者数
比治山大学	『偶然短歌』（いなわに、せきしろ 著）	6 名	19 名
広島市立大学	『いまさら翼といわれても』（米澤穂信 著）	5 名	40 名
広島工業大学	『恋愛写真—もうひとつの物語』（市川拓司 著）	5 名	18 名
呉工業高等専門学校	『AX』（伊坂幸太郎 著）	4 名	12 名
広島大学	『18 禁日記』（二宮敦人 著）	4 名	16 名
福山大学	『ドミノ』（恩田陸 著）	5 名	14 名

- (6) 中国 D・E ブロック地区決戦結果

ブロック	チャンプ本	発表者所属
中国 D ブロック	『ローマ帽子の謎』（エラリークイーン 著）	尾道市立大学
中国 E ブロック	『18 禁日記』（二宮敦人 著）	広島大学

- (7) 本戦結果

受賞	書名	発表者所属
グランドチャンプ本	『18 禁日記』（二宮敦人 著）	広島大学
準グランドチャンプ本	『メ切本』（左右社編集部 編）	郡山女子大学
ゲスト特別賞	『絶望ノート』（歌野 晶午 著）	放送大学

広島県大学図書館協議会 加盟館（広島大学）にて開催した地区予選で優勝した学生が、グランドチャンプ本を獲得した。

### 平成 29 年度広島県大学図書館協議会総会議事録

日時:平成 29 年 7 月 7 日(金) 13:30~16:10

会場:海上保安大学校、総合実習棟 2 F :海技演習室

参加:加盟館 24 機関 39 名+ オブザーバー (県立図書館 1 名)

欠席:加盟館 1 機関 1 名

1. 開会 当番館 海上保安大学校

2. 挨拶 倉本 和興 (当番館 海上保安大学校図書館 館長)  
寺本 康俊 (代表幹事館 広島大学図書館 館長)

3. 議長選出

慣例により、当番館の館長の倉本和興を選出した。

4. 報告

(1) 平成 28 年度事業報告

代表幹事館の(広島大学)山根グループリーダーから、平成 28 年度の事業として総会、各委員会等の開催、研修会等について報告があった。

(2) 平成 28 年度研修企画委員会活動報告

研修企画委員長の(広島修道大学)富永図書課担当課長から平成 28 年度の活動報告があった。

(3) 平成 28 年度共同リポジトリ委員会活動報告

共同リポジトリ委員館の(広島大学)上田主査から平成 28 年度の活動報告があった。

(4) 平成 28 年度広島県内図書館連絡会議

広島県内図書館連絡会議委員館の(比治山大学)福田図書課長から、平成 28 年 12 月 21 日に広島県立図書館において開催された連絡会議の概要が報告された。

5. 各館活動報告(各館、2分以内)

参加機関の代表から、平成 28 年度に取り組んだ教育支援、研究支援、社会貢献、管理運営について報告がなされた。その後次のとおり質疑応答があった。

※冒頭の大学名は、回答大学を指す。

(1) (県立広島大学) 選書ツアー、WEB 選書に関して

・選書ツアー、WEB 選書は、大学院生及び教員に依頼し、学生に読ませたい図書のデータを収集する目的で実施した。

(2) (県立広島大学) 脱出ゲームに関して質問があり、

・脱出ゲームは、図書館内の分類開架された図書に問題をしのばせておいて、順次問題を解きながら図書の配架場所等を把握してもらう目的で実施した。

(3) (広島修道大学) ブックハンティングに関して

・ブックハンティングは、複数の書店が選書した図書を図書館内に展示し、図書館に置いてほしい図書を学生及び教職員に選書してもらう目的で実施した

- (4) (広島市立大学) 英語多読本に関して
  - ・英語多読本の整備は、英語に慣れ親しむ観点から、ジャンルやレベルにこだわらず、やさしい英語を大量に読むことを基本に整備を行っている。
- (5) (広島市立大学・広島大学) 電子書籍に関して
  - ・電子書籍のメリット・デメリット、利用促進の取り組み等について、補足説明等があった。

## 6. 協議

- (1) 平成 28 年度決算書 (案) 及び監査報告について
  - 代表幹事館の (広島大学) 上田主査から平成 28 年度の決算報告が行われた後、監査館である (広島市立大学) 出原主幹から監査報告が行われ、異議なく承認された。
- (2) 平成 29 年度事業計画 (案) について
  - 事務局の (広島大学) 山根グループリーダーから平成 29 年度の会議予定及び委員会についての説明があり、異議なく承認された。
- (3) ビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施 (案) について
  - 事務局の (広島大学) 山根グループリーダーからビブリオバトル広島地区予選・決戦の実施について説明があり、異議なく承認された。
- (4) 平成 29 年度予算書 (案) について
  - 代表幹事館の (広島大学) 上田主査から平成 29 年度予算 (案) が提案され、原案通り異議なく承認された。
- (5) 平成 29 年度役員館・委員館の選出について
  - 代表幹事館の (広島大学) 福山グループリーダーから次の説明があり、承認された。
  - (5-1) 幹事館、研修企画委員会選出
    - 幹事館、研修企画委員会は、任期 2 年で今年度は 1 年目のため改選しなかった。(会則第 8 条、研修企画委員会内規の 6)
  - (5-2) 幹事館、研修企画委員会以外の選出
    - 監査館は輪番で、福山市立大学 (申合わせ事項の 3)
    - 共同リポジトリ委員館は、(広島大学、広島文教女子大学、福山市立大学、日本赤十字広島看護大学、広島工業大学、広島都市学園大学)。(共同リポジトリ委員会内規の 6)
    - 委員長館は、(福山市立大学)。
    - 広島県内図書館連絡会議委員館は、(比治山大学、広島文化学園大学、県立広島大学)。(県内図書館連絡会議設置要項第 4 条)
- (6) 次期当番館について
  - 役員館の選出と同様、代表幹事館の (広島大学) 福山グループリーダーから説明、推薦があり了承された。なお、平成 29 年度鈴峯女子短期大学退会により平成 31 年度以降の予定館は繰り上げとなった。
  - 次期総会当番館は、輪番で、(山陽女子短期大学)。(総会会場順次表)
- (7) 平成 30~34 年度の広島県大学図書館協同リポジトリの年会費 (案) について
  - 共同リポジトリ委員館の (広島大学) 上田主査から平成 30~34 年度の広島県大学図書館共同リポジトリの年会費について (案) が提案され、原案通り異議なく承認された。

## 7. 承合事項

### (1) 返却ポストの設置について

- ・(エリザベト音楽大学、福山大学、福山平成大学、海上保安大学校、山陽女子短期大学)を除く加盟館において設置を行っているが、モラルの低下した学生による不具合等はあるものの、図書を借りた学生の都合による時間外返却が可能であるとの好評価もあった。

### (2) 図書館学生ボランティア団体について

- ・(広島大学、広島国際大学、広島都市学園大学、広島文化学園大学、福山大学、山陽女子短期大学)に団体があり、図書館の利用促進活動等を行っている。

### (3) 資料の保存(カビ・虫等対策)について

- ・加盟各館において、カビの発生が10館、虫の発生が4館で報告されているが、対策として、除湿機・換気扇・送風機等で室内の空気が澱まないように工夫を凝らしている。

## 8. その他

オブザーバーとして参加の広島県立図書館 植田副館長から広島県立図書館事業説明があった。

4月から新たに2大学(広島国際大学図書館、福山大学図書館)の蔵書も検索可能となり、広島県内23市町の図書館と6大学の図書館の蔵書が一度に検索可能となったとの報告があった。

また、「全国ビブリオバトル 2017～首都決戦～」について、広島県大学図書館協議会との共催について報告があった。

## 9. 閉会

次期当番館の(山陽女子短期大学)浦崎館長代理から当番館受託と閉会の挨拶があり、閉会した。

以 上

平成29年度広島県大学図書館協議会研修企画委員会活動報告

1. 研修会

第1回

日時：平成29年9月13日（水）13:00～17:00

場所：広島大学 東千田未来創生センター 2階

テーマ：「2020年の大学図書館を考える」

講演1：「2020年のNACSIS-CAT/ILL」

講師：三角 太郎 氏（筑波大学学術情報部アカデミックサポート課長、NACSIS-CAT 検討作業部会主査）

講演2：「2020年のOAと機関リポジトリ」

講師：尾崎 文代 氏（鳥取大学附属図書館学術情報部図書館情報課長、JPCOAR 運営委員）

参加：17機関39名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2017/10/2901quest.pdf>

第2回

日時：平成29年12月22日（金）13:30～17:15

場所：広島経済大学 アカデミック・コモンズ「明德館」8104、8105

テーマ：「著作権について《みんなで考えよう（著作権の考え方・とらえ方）》」

講演：「大学図書館と著作権ー大学図書館職員が知っておきたい著作権ー」

講師：尾崎 史郎 氏（福山平成大学副学長）

参加：20機関33名

アンケート結果

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/haul/wp-content/uploads/2017/12/2902quest.pdf>

2. 評価と課題

第1回

2020年の大学図書館を考えるにあたり、NACSIS-CAT/ILL とオープンアクセス・機関リポジトリの二つのトピックをとりあげることとし、筑波大学の三角太郎氏にNACSIS-CAT 検討作業部会の検討状況や今後の展開について、鳥取大学の尾崎文代氏に今後のオープンアクセスと機関リポジトリの動きについてご講演をいただいた。

アンケートによると、NACSIS-CAT2020について詳しい話を聞くことができ大変ためになった、日ごろ疑問に思いながらもよくわからないこととお伺いすることができて有意

義だった、オープンアクセスについて全般的な情報が整理されていてよく理解できたなどの感想があり、「非常に有意義であった」が46%、「有意義であった」と合わせると95%となり、好評であった。

## 第2回

図書館員は、著作権についての正しい知識を身につけた上で、利用者に対して著作権の周知に努めながら利用者サービスを行うことが重要だという視点から、福山平成大学副学長の尾崎史郎先生を講師にお迎えして、著作権をテーマとした研修を実施した。研修は、大学図書館における著作権の考え方やとらえ方を中心に、各館からの著作権に関する質問にお答えいただく形で進めていただき、その後、「広報目的での書影の利用」、「館内での資料の写真撮影について」のテーマに分かれ、それぞれ2グループでグループワークを行い、各館の対応や疑問点などを話し合い、著作権についての情報を共有した。

アンケートによると、他大学の図書館がしていることや考えていることに触れて充実していた、講師の先生の解説が本当に参考になった、質問に対して一つ一つ丁寧に対応いただき大変ありがたかったなどの感想をいただいた一方で、「講演時間が、2時間と長い気がした。」「グループワークの時間をもう少しとったら良いと思った」などの意見があり、研修会における時間配分が課題となった。

平成 29 年度共同リポジトリ委員会報告

HARP 参加機関数

16 機関

第 1 回委員会（拡大）

【日 時】 平成 30 年 2 月 9 日（金）

【場 所】 広島大学 東千田未来創生センター

【出席者】 15 大学 21 名

【議事】

1. 報告・協議

(1) 自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介

(2) 2017 年度執行状況及び 2018 年度予算について

(3) HARP サーバ切替えについて

2. 勉強会

・リポジトリ登録データの仕組み



平成 29 年度第 1 回広島県大学図書館協議会  
共同リポジトリ委員会・勉強会 議事要録

日 時 平成 30 年 2 月 9 日 (金) 14 時 30 分～17 時 00 分  
場 所 広島大学東千田未来創生センター 3 階 ミーティングルーム 3-1  
出席者 15 大学 21 名参加 (拡大委員会とし、HARP 参加館が出席)

開会

福山市立大学・共同リポジトリ委員会 辻委員長の挨拶で開会した。

議事

1. 報告・協議

(1) 自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介

出席者は、自己紹介と各館のリポジトリに関する近況紹介を行った。

(2) 2017 年度執行状況及び 2018 年度予算について

広島大学 内田より、共同リポジトリ事業費について、2017 年度執行状況の報告及び 2018 年度予算について提案があり、案のとおり了承された。当案を、来年度の県大図協総会で報告、提案することとした。

また、2018 年夏のサーバリプレイスに伴う機器購入費及びシステム移行費について説明があった。2019 年度以降は、全国的なスキーマ変更に伴い HARP システムの一部改修を予定しており、広島大学で試験的に改修を行い登録に支障がないか確認後、HARP サーバへの対応を検討することとした。

(3) HARP サーバ切替えについて

広島大学 内田より、資料に基づいて、サーバの切替え時期、概算費用、今後の会費、スケジュール等について確認と説明があった。

・サーバの切替え時期

サーバの保守期限を迎える 2018 年 9 月までに切替え予定。

・概算費用

参考資料 1, 2 の見積内容をもとに進める。

・今後の会費

今年度の総会で決定したとおり、2017 年度までは各機関 15,000 円、2018 年度から各機関 22,000 円の徴収となる。

・スケジュール

出席者より、新サーバ切り替えは、盆明け 8 月中旬～下旬がよいとの希望があった。当期間を第一希望とし業者と調整の上、日時決定しだい連絡する。

・その他

-画面の見た目や、コンテンツの登録方法に変更はない。

-リポジトリ管理停止：約 1-2 週間程度

管理画面からの検索、閲覧、統計データの取出し等は可能だが、修正は不可。

-リポジトリ利用停止：半日から 1 日程度 (平日)

2. 勉強会

開催要項に基づき、勉強会が行われた。内容は以下のとおりである。

・リポジトリ登録データの仕組み (広島大学 上田)

HARP へ登録されたデータの流れ、メタデータの登録、Junii2 から JPCOAR 形式への

変更について説明があった。特に、これまで HARP のデータは、Junii2 形式で、IRDB へ渡していたが、今後 JPCOAR 形式に変更となる。言語区分や資料タイプ等、入力に変更が出るため、数年をかけて対応する予定としている。過去の登録済コンテンツについても、どのように対応するか検討が必要である。

<質問>

現 HARP のシステムについて、(JPCOAR 形式への対応するための) システム改修までの期間、登録について気を付けることはあるか？

<回答>

例えば、抄録など、言語が 2 通りある場合は、別々のフィールドへ入力する方がよい。また、コンテンツが『図書の一部』の場合は備考欄へ記録するなどしておくとういだろう。

<補足>

その他 JPCOAR に関しては、以下のウェブサイトで随時、新しい情報の提供を行っている。ぜひ参考にしてほしい。

JPCOAR スキーマについて (資料)

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000024/>

JPCOAR について

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

以上

広島県内図書館連絡会平成29年度会議議事録

1 日 時 平成29年12月19日（火） 午前10時30分～午後0時3分

2 場 所 広島県立図書館応接室

3 出席者

(1) 委 員

県立広島大学学術情報センター図書館 学術情報係長 廣瀬和美

比治山大学図書館 図書課長 福田房子

広島文化学園大学図書館 係長 弥富純子

広島市立中央図書館 事業課課長補佐 千原真純

呉市中央図書館 課長補佐 吉村久美子

広島県立図書館 司書 青木遼佑

(2) 事務局

広島大学図書館 図書学術情報普及グループリーダー 福山栄作

広島大学図書館 図書学術情報企画グループ主任 山下真佑美

広島県立図書館 事業課長 正井さゆり（広島県公共図書館協会事務局次長）

広島県立図書館 事業課主事 阿波村佳

4 議 題

(1) 広島県内大学図書館等と広島県内公共図書館の連携について

ア 広島県公共図書館協会事務局次長（以下、事務局次長）が、当連絡会と今年度の事前調査に係る経緯等を説明した。

(ア) 資料1は、この会議に先立ち、広島県公共図書館協会加入館を対象に行った「大学図書館等との連携について」の事前アンケート結果である。大学図書館との連携について「該当あり」とした館は28館、「該当なし」とした館は13館であった。

(イ) 平成28年度に大学図書館と相互貸借を行った「館数」は貸出が2館、借受が18館で「件数」は貸出452件、借受288件であった。

(ウ) 「貸出し返却窓口の設置」は、相互利用は「なし」、「その他」が2館で、広島市では、広島市立大学図書館窓口で広島市立図書館資料の返却の受付を行っているほか、東広島市では、広島国際大学図書館窓口で東広島市立黒瀬図書館の資料の返却や受取りの受付を行っている。

(エ) 職員研修は、広島市が、大学図書館と交換研修を行っている。

- (オ) 「共通のテーマによる展示」を実施した館が10館、「資料交換等」を行っている館が1館、「その他」が1館であった。広島国際大学図書館と黒瀬図書館が100冊の本を交換して貸出を行っているほか、県立図書館が「サンフレッチェ広島応援」資料の巡回展示を行っている。
- (カ) 「その他行事」について、実施していると回答のあった館は6館であった。講演会や資料寄贈のほか、広島市立図書館が中心となって今年度、「2017 Hiroshima Active Library協働事業」と題し、広島市内の大学図書館、県立図書館とで「障害の理解」を共通のテーマにして、イベント等を実施した。
- (キ) 大学図書館について知りたいこととして、電子ジャーナルの利用、行事、資料の管理や障害者サービスなどが挙げられている。また、大学図書館に希望することとして相互貸借の物流についてや展示や講演での連携、レファレンスの支援などがある。
- (ク) 参考として、大学との連携について回答があったものを資料1の最後に掲載した。  
イ 委員からは、次のような意見があった。
- (ア) 「大学図書館に希望すること」として「電子図書館サービスにおける連携など、一層の連携強化をお願いしたい」とあるが、来館者に対する電子書籍や電子ジャーナルの利用サービスについては各館が判断することになると思われる。また、デジタルアーカイブの作成に係っては協力の可能性はある。(県立広島大学)
- (イ) 「郵送料を協議して片道負担」に関しては、当館も相互貸借に力を入れていきたいと考えている。県立図書館の相互貸借の便に乗せることができればよいと思う。(県立広島大学)
- (ウ) (イ)について、島根県では(大学図書館の資料を公共図書館に送付する)県と市の配送便がある。時間がかかってもよければ利用できるのではないか。(事務局(大学))
- (エ) 「研究室扱いになっている資料についても、複本等あれば相互貸借対象扱いにしてほしい」について、研究室扱いの資料は先生に尋ねてから貸し出している。(研究利用が優先される。)(比治山大学)
- (オ) 「大学図書館からの相互貸借資料借り受けがもう少し容易になってほしい」とあるがもう少し容易とはどういうことか質問があった。(比治山大学)
- (カ) (オ)について、次のとおり発言があった。
- a 分館では大学図書館との相互貸借に慣れていない。大学ごとに手続きや書式が異なるためその都度確認をしている。(広島市立中央)
- b 大学図書館の対応は一律ではないため、各館に尋ねることに慣れれば容易になると思う。(県立広島大学)

- (キ) 来いぶらりネットの横断検索へのデータ提供は共通プロトコルを持っていることを前提にされているのか。(広島文化学園大学)
- (ク) (キ)について、共通プロトコル以外の図書館でもデータを提供していただくことは可能だが、費用の問題等があり、現在業者等に確認中である。(事務局(公共))
- (ケ) 「ナクシスやサイニィ」の使用方法を職員研修で教えて欲しい。大学図書館ではこれらを活かしたレファレンスをしているのではないか。事例を持ち寄った研修等があると参考になる。大学図書館にレファレンスの支援をお願いしたい。(呉市中央)
- (コ) (ケ)について、次のとおり発言があった。
- a 広島大学の東千田キャンパスでは今年度新たに放送大学学生向けにOPACやサイニィの講習会を開いている。ナクシスやサイニィはグーグルと同様に検索すればよい。(事務局(大学))
  - b 大学図書館では、職員がレファレンスをするというより、学生に使い方を教えるスタンスである。(県立広島大学・比治山大学)
  - c 図書館のガイダンスのレジュメや動画をWeb上にアップしてもらえたとお互いの参考になる。(県立広島大学)
  - d ナクシスやサイニィの事例研修は職員研修の案として承った。雑誌・論文等のレファレンスについては、まず県立図書館に尋ねていただくとよいのではないか。(事務局(公共))
- (サ) 「学生の利用傾向」については、「まず大学図書館で調べて所蔵していない場合公共図書館を紹介している」、「学生が図書館を利用して調べものをするイメージがない」、「(県立図書館の)インターネット予約等もあまり利用していない」等の発言があった。(県立広島大学・比治山大学・広島文化学園大学)
- (シ) 「障害」のある学生への支援については、自動ドア・OPAC等の整備や点字ブロックの設置・対面朗読室や読み上げ機器の利用があり、在学者の状況に応じてその都度対応を検討した。(比治山大学・広島文化学園大学・広島大学)
- (ス) 県立図書館から「サピエ」の利用の可能性について質問があり、事務局(大学)から、学生は、CDやパソコンよりも「スマホやタブレットの方が利用するのではないか」との発言があった。県立図書館から「サピエは個人でも登録する方法がある」と発言があった。
- ウ 事務局(公共)から、この度大学図書館にもアンケートを実施した経緯と内容が多岐にわたるため、本日の会議ですべてに触れることはできないが、今後、何らかの形で整理していきたいと考えていると説明があった。

- エ 事務局（大学）から「平成29年度 広島県内図書館連絡会（広島県公共図書館協会→広島県大学図書館協議会）事前アンケート 結果一覧」によって、概要の説明があった。
- (ア) 公共図書館との連携において、留意してほしいこととしては、大学図書館の主要なサービス対象は学生と教員であり学外の方については一定の制限があることが挙げられた。
- (イ) 来いぶらりネットの機能への期待が大きい。システムの整備を進めて欲しい。  
横断検索から各大学図書館の利用条件（「相互貸借・文献複写取扱い」）のページに直接飛べるとよい。  
来いぶらりネットで相互貸借資料が返却されたことがメールで通知される機能などシステム面の改善ができないか。
- (ウ) 公共図書館に対して知りたいこととして、電子書籍を導入しているかどうかを挙げられた。
- (エ) また、公共図書館の選書方針について、特に郷土資料をどこまで集めているか知りたいとの意見があった。大学図書館は公共図書館の郷土資料に期待している。
- (オ) 大学図書館で力を入れているのは、アクティブラーニングやリポジトリ等である。
- オ 委員からは、次のような意見があった。
- (ア) 大学図書館の利用条件は、来いぶらりネットの「相互貸借・文献複写取扱い」のページに掲載している。（県立）
- (イ) 収書方針は各館ホームページ等を見ていただきたい。また、来いぶらりネットの「運営相談」のページに同様の質問が掲載されており、どこまでの範囲を郷土資料として収集しているかや郷土資料以外で重点的に収集している資料について記載している。（県立）
- (ウ) 昔に比べ、学生が専門書を利用することが少なくなっている。一方で遠方からも郷土資料を求めて来館する方が増えてきている。インターネットの影響だと思われる。（呉市中央）
- (エ) 電子書籍の導入については検討中であるが、一般的な資料は予算面やコンテンツが少ないという問題がある。広島平和記念資料館の平和データベース「広島原爆戦災誌」のように、それぞれの図書館が所蔵する地域に関する資料を電子化して共通のものとするのができたらと考えている。（広島市中央）
- (オ) 大学では、電子書籍の購入において丸善のアカデミック向けコンテンツを入れているところが多い。（事務局（大学））
- (カ) 広島 長束キャンパスでは、絵本の所蔵も多く学外の利用者が多いため、繁忙期等

対応が難しい。入館者の管理等もどのようにしたらよいのか。(広島文化学園大学)

(キ) (カ)について、他大学から「職員数が少ない場合、対応は難しいと思われる」、「学生等の利用が優先すること等を掲示してはどうか」等の発言があった。

(2) その他

事務局（公共）から県内図書館連絡会の在り方や開催時期について、委員からの発言を求めた。次のような発言があった。

(ア) 公共図書館・大学図書館それぞれの事前調査を資料としてまとめてあり、事前に送付もされたため参考になった。(県立広島大学)

(イ) 時期は例年通りで構わない。日程も調整してもらったので参加できた。(比治山大学)

(ウ) 以前は公共図書館協会からの要望等も形式的だったが、最近の会議では具体的に積極的な発言が増えてきてお互いのことが分かりやすくなった。(比治山大学)

(エ) この会議の内容を各キャンパスの図書館に伝えたい。(広島文化学園大学)

(オ) 大学図書館の現状についてざっくりばらんに質問することができ、自館の悩みも相談できた。今回のアンケートに記載されている内容を一つでも実施し積み重ねていければよいと思う。(呉市中央)

(カ) 大学図書館の状況を知る貴重な機会だった。会議については、今後、オンラインでの開催も検討してはどうか。(県立)

(キ) 「2017 Hiroshima Active Library協働事業」では、大学図書館の協力をいただいた。今後、大学図書館協議会にも連携を図り、継続していきたい。(広島市立中央)